十年の歩み

教師　桑原久子

学校を出て、倉橋先生のおすすめで青森県へ赴任しました。はじめての下宿生活、純朴な園児、付属という特殊な環境、雪国の生活、さまざまな事を体験した一年間は、その後の私の保育生活に、大いに自信を与えられたと思っております。

昭和十七年に家庭の人となり、長女を理想的な幼稚園に入れたいと思いましたが、当時はこの地も開けておりませんで、わずかに自宅を開放して、幼児グループをしている方があったぐらいのものでした。長女は社会性のあまりない子どもでしたので、家においておくよりは、少しでも広い環境におきたいと思って、その幼児グループに入れていただきました。往復には、踏切り、十字路などがあるので、心配で送り迎えしているうち、私の力が幼児グループのために少しでも役に立つならと思い、もともと好きな道なので、ついお手伝いが助手となり、いつの間にか毎日あてにされるような立場になってしまいました。昔とったきねづかとよくいいますが、幼児のお相手をしていることが、とても楽しくてたまらないようになりました。当時二才になるかならない長男もつれて、雨の日も風の日もかかさず通ったことを、今ふりかえってみますと、熱と若さでよくやり通せたものと思っております。

長女も小学校へ上るようになり、学校から帰ると鍵を開けて、私が帰るまで一人で本を読み、あるいは画をかいたりして留守番をしていました。

こんな環境のためですか、静かにものを考えたりする性質となり、反面読書力が優れているように思います。

さて、そうこうしているうち、グループの幼児の数も殖え、ようやく手ぜまを感じるようになり、主宰していた未亡人のかたが御自分の体験から、働く母親のために保育園にしたい意向を持たれ、私も賛成して八年前新しく園舎を建て、保育園を設立されました。

二十七年八年頃は、園児数も最も多く、

やむを得ずお断りするほどでした。その後現在までに三度拡張されました。住宅が郊外へとどんどん建てられる時代となり、ここも空地がなくなるほど住宅が建てられ、周囲に幼稚園や保育園も出来ましたが、兄弟が次々と入園し、また評判もよく、いつも定員をオーヴァするほど盛況でした。私も自分の生活は一応安定していますので、奉仕的な気持で園のためにつくしました。保育園の仕事に熱心なあまり、主人ともよく衝突しました。近所のかたからも何やかやといわれたり、これでは家庭との両立は駄目かしらと思ったり、でも何とかして続けていきたいと思い、主人と相談して五年前に、保育園の隣に家を建てました。保育園と地つづきのため、子どもが学校から帰ってきても母親が隣にいるということで、遠く離れているより何か安心感があり、私自身自分の家を目の前にして、安心して保育に専念出来るようになりました。園の方も保母さんの手もだんだんにそろってようやく私の願っている理想に近づいてきました。一方私の家庭は、幸に家族構成が簡単なため、また子どもたちもだんだん大きくなりましたので、お手伝いもおかないで何とかすませてきました。それでも出勤前の時間は、掃除、せんたく、夕食のことまで考えると非常に忙しく、つい押しつけ仕事になりがちでしたが、子どもたちも私の帰りのおそい日は、だまっていてもせんたくものをとりこみ、御飯を炊いておいてくれるまでになりました。夕食はとかくカンヅメを主にしたお料理になりがちでしたので、家にいる日や日曜日は特にお料理の方に力を入れ、また夜は出来るだけ子どもたちの学校の話に耳を傾け、また学習の相手をするように努めました。子どもの学校はそれぞれ自由学園、学芸大付属小へお願い出来ましたので、大きな安心感がありました。

私も少しでもよい妻、よい母になりたい希望で園の方も週に二回休みを頂くようになり、家事の整理も出来、またピアノも稽古する余裕も出来て、ようやく職業と家庭との両立が出来るようになりました。かれこれするうち、あしかけ十年も経ってしまって、保育園の方もすっかり基礎が出来、家庭環境のわるい子どもも皆平等に喜々として遊んでいるのを見て、本当に満足感が湧いてきました。そして自分のやるべきことはこれで一応やりつくせたような気持になりました。

こんな時、この新開地に近代的な建築と設備をもって誇る幼稚園の園長を引受けるようすすめられました。私はかねがね自分に資力があったら、理想的な幼稚園を開いてみたいと夢に描いておりました折でもあり、経営者から保育の面は全面的に任せるというお話なのですぐお引受けしたいと思いましたが、子どもも中学三年、小学校五年となるにおよび、それぞれ意見主張など一人前に述べるようになり、主人も家庭第一主義でしてもらいたい建前から反対でし

た。四、五日ゆっくり考えました。だんだん話し合っているうち、主人も子どもたちも私の幼児教育に対する熱意にほだされ、私の希望をかなえてくれました。しっかりした留守番のかたも決め、万全の体勢を整えて新しい生活にとびこもうとしております。

理想的な幼児教育は、やはり理想的な環境、施設、設備の上に立ってなされるということをいつも考えておりましたが、幼児をすばらしい環境のもとで、理想的な保育が出来ると思うと考えただけでも楽しいことです。

わが子を育てることから出発した私の走馬燈のような十年は、本当に夢中で過してしまいました。これからは今までの経験をじゅうぶん生かして、幼児の持って生まれた純真な気持をまっすぐに育くんで、理想的な幼稚園として発展させていきたいと日々念願しております。

（大泉文華幼稚園長）

思い出の中から

教師　相馬誠子

幼児教育の道をあゆんできて、いつも思い出すのは、終戦のあの頃である。

誰しもが、将来の方針も定まらず、途方にくれていた中で、幼児教育についても、どうやって指導していったらよいのか迷っていた私は、ちょうど、故倉橋先生の講話があるときき、とび立つおもいで上京したものだった。

その時のお話は混沌としていた私の心に大きな光明となっただけでなく、十余年後の今もなお、教えられることが多いのである。

そこで次に、この講話をかいつまんでお伝えすることにする。

○　封建社会から、民主社会に移行されるにあたり、幼児教育の目的、および内容のどこを新しくし、どこに重点をおくか。社会が、民主的になるためには、一人ひとりが民主的にならなければならない。

そこで、民主的性格教育ということが、当然重要視される。

では、民主的性格教育とは、どういう